

令和3年
岩手県教育委員会定例会
2月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和3年2月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和3年2月15日（月）午後1時30分

第1 会期決定の件

第2 議案第32号 岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任に関し議決を
求めることについて (生涯学習文化財課)

第3 事務報告1 高校再編後期計画（最終案）に係る岩手県教育振興基本対
策審議会等の意見について (学校調整課)

閉会

議案第 32 号

岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任に関し議決を求めることについて
次のとおり岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任をすることについて、議決を求める。

1 任命（令和3年3月1日付）

職 名 等	氏 名
岩手県立美術館友の会運営委員	日 野 美 和
特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会事務局長	梶 田 佐知子
公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長	八重樫 利 久

2 解任（令和3年2月28日付）

氏 名	任 命 年 月 日	解 任 理 由
中 瀬 淑 子	令和2年3月1日	辞任の申出があったため
阿 部 徹	令和2年3月1日	辞任の申出があったため

令和3年2月15日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県立美術館協議会委員構成

	現委員					新委員(案)の構成					備考		
	推薦団体	職名	氏名	性別	年齢	初任命	任期	職名	氏名	性別		年齢	
学校教育関係者	岩手県小学校長会	盛岡市立巻廻小学校長	佐藤 あい子	女	58	R1.8.1 (2期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
	岩手県中学校長会	盛岡市立松園中学校長	内村 弘子	女	59	R2.8.1 (1期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
	岩手県高等学校長協会	岩手県立不来方高等学校長	藤谷 和浩	男	59	R2.8.1 (1期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
社会教育関係者	特定非営利活動法人岩手県地域協会の協議会	岩手県地域協会の協議会理事	中瀬 淑子	女	72	R2.3.1 (1期)	R4.2.28		岩手県地域協会の協議会事務局長	梶原 由子	女	60	推薦依頼
	一般社団法人岩手県PTA連合会	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	岩崎 智子	女	46	H30.8.1 (2期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
	一般社団法人岩手県芸術文化協会	岩手県工芸美術協会の会長	菊池 芳江	女	70	H26.3.1 (4期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
学識経験者	株式会社岩手日報社	(株)岩手日報社編集局次長	藤原 哲	男	58	R1.8.1 (2期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
	岩手県立美術館友の会	岩手県立美術館友の会運営委員	藤代 伸子	女	60	H29.3.1 (2期)	R3.2.28		岩手県立美術館友の会運営委員	日野 美和	女	37	任期満了 推薦依頼
	一般社団法人岩手県経営者協会	(株)普文常務取締役	菅 しのぶ	女	62	H28.3.1 (3期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
個人	公益財団法人岩手県観光協会	盛岡グランドホテル人事部長 材開発課マネージャー	石塚 庸子	女	59	H26.3.1 (4期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
	公益財団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会	(公社)日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会副会長	阿部 徹	男	36	R2.3.1 (1期)	R4.2.28		岩手県青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会長	八重樫 利久	男	40	推薦依頼
		一関市博物館学芸主査	大衛 彰	女	50	H30.3.1 (2期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
		花巻市教育委員会教育部文化財課主査	伊藤 真紀子	女	49	H30.3.1 (2期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
		盛岡市立本宮児童館・老人福祉センター館長	樋下 照男	男	66	R2.3.1 (1期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	
		岩手大学教育学部特命教授	菅内 努	男	62	R2.3.1 (1期)	R4.2.28		変更なし			今回改選なし	

※ 年齢は、令和3年3月1日現在であること。

【審議会等の設置・運営に関する指針】	(旧)	(新)
在任期間が8年を超える委員	0名	0名
委員の男女比率(男性:女性)	33.3%:66.7%	33.3%:66.7%
若手委員(50歳未満)の登用率	20.0%	26.7%

事務報告 1

高校再編後期計画（最終案）に係る岩手県教育振興基本対策審議会等の意見について

第 2 回岩手県教育振興基本対策審議会

開催日：令和 3 年 2 月 5 日（金）10:00～12:00（於 エスポワールいわて）

会議構成員：市町村長、市町村教育長、大学教員、県体育協会理事、県芸術文化協会理事、県 P T A 連合会副会長、産業関係者等（合計 18 人）

議事内容：高校再編計画後期計画（最終案）について、案からの見直しの内容と盛岡ブロックの統合新設校の学びの姿について説明の上、意見聴取を行った。

後期計画（最終案）について

後期計画（案）からの見直しについて異論は出されず、最終案を支持する内容の意見をいただいた。

※原案については、昨年 10 月に開催した審議会において説明済であるもの。

【主な意見】

- ・ 後期計画（最終案）は地域の方々と議論を重ねた上で作られたものであり、内容について異論はない。
- ・ これまでは、中学校卒業者数の減少に対し、学級数を調整することで対応してきたが、この対応も限界である。
- ・ かつて中学校卒業者数が増加し、高校進学率の上昇に対応するため高校を新設してきたが、中学校卒業者数が減少している現状においては、高校の統合による対応は当然のことと考える。少子化が進む中、統合を進めることについては賛成である。

盛岡ブロックの統合新設校における学びの姿について

盛岡南高校と不来方高校の統合による新設校の学びの姿について、理解が得られるような説明の仕方等に関する意見やより良い学校づくりに向けた提案をいただいた。

【主な意見】

- ・ 少子化が進む中、高校の統合はやむを得ない。関係する方々へ丁寧に説明し、先導的な姿について理解が得られるよう努めてもらいたい。
- ・ 両校の特長やこれまでの成果等を明らかにしながら説明をすれば理解が進むのではないかな。
- ・ 体育の学びの中で、現在盛岡南高校で行われている「盛南スポーツ学」を継承するとしているが、発展させるよう取り組むとした方が良いのではないかな。
- ・ 少子化が進むから統合し、既存のものをそのまま残すだけとの誤解を招かぬよう、今までの普通高校にはない新しさを出していくことも必要ではないかな。
- ・ 今回示された 4 つの系列を統合する更に大きな名称を検討するなど、見える形で特色を出していくことも必要ではないかな。
- ・ 盛岡南高校と不来方高校の良い点を合わせただけの統合とのイメージを持たれないよう、今までとは違う高校を作るという気持で取り組んでほしい。
- ・ 少子化が進む中、統合せず学級減で対応した場合、今までのような実績が残せるか疑問である。統合新設校が全国に誇れるような学校となることを期待している。
- ・ 「単位制」の導入に向けては、運用等についてしっかりと研究した上で進めてほしい。

いわて産業人材育成会議

開催日：令和3年2月9日（火）14:00～16:00（於 岩手教育会館）

会議構成員：産業界代表者（9人）、岩手大学学長他大学関係者及び一関高等専門学校校長、
県工業技術センター顧問、県高等学校教育研究会工業部会長、岩手労働局職業安
定部長、県教育委員会事務局教育次長、県商工労働観光部長（合計18人）

説明内容：高校再編計画後期計画（最終案）の概要（特に、地域の産業教育の拠点となる専
門高校の整備を中心）について説明の上、意見聴取を行った。

【主な意見】

- ・ これほどまで中学校卒業生数が減少する見込みである状況だということを初めて知ることができた。少子化によって、工業の学びが縮小していくことを危惧している。
- ・ 施設や設備を整え、工業の学びを揃えることで、通学時間が長くなったとしても、この学校で学びたいと思えるような魅力ある学校を作ってもらいたい。

新たな県立高等学校再編計画（最終案）の概要

新たな県立高等学校再編計画（平成28年3月策定）

県教育委員会では、適切な教育環境の整備を図るため、平成28年3月に10年間の高校再編計画を策定し、前期計画の着実な推進とともに、後期計画の策定に取り組んでまいりました。

10年間の高校再編計画



【高校再編の方針】

県立高校の現状と課題を踏まえ、**教育の機会の保障と教育の質の保証**を柱としつつ、地域における学校の役割を重視した『**魅力ある学校づくり**』に向けて進めるものです。

※ 後期計画策定に向けた主な取組

- 生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議(H29～H30)
- 中学生の進路希望等に関するアンケート(H30)
- 地域との意見交換会(H30～R2)
- 後期計画(案)の公表(令和2年2月6日)
- パブリック・コメントの実施(R2)

1 県立高等学校の現状と課題

(1) 少子化による生徒数の減少

今後、県内全域の学校規模がさらに縮小することから、各学校における教育の質を確保する必要があります。

(2) 盛岡ブロックへの志願者の集中

比較的規模の大きい公立・私立の学校が設置されている盛岡市内に志願者が集まり、特に盛岡市内の県立高校の志願倍率が高い。

(3) 地域社会を担う人材の育成

地域社会に貢献する意識を醸成する教育を推進し、将来、地域で活躍し、地域を支える人材を育成することが重要となる。

2 本県の施策に基づき後期計画

(1) 高等学校教育の状況

岩手の未来を拓く子どもたち一人ひとりの人格の完成と夢の実現を支え、新たな社会を創造する担い手として育てていくために、**いわて県民計画**や**岩手県教育振興計画**に基づき、県内すべての県立高校が、活力を有した魅力ある学校づくりを推進。

(2) 地域や産業界と高等学校教育のかかわり

第2期岩手県ふるさと振興総合戦略に基づき、岩手の将来を担う子どもたちを育て、地域や地域産業を担う人づくりを推進。

3 後期計画の基本的な考え方

(1) 生徒の希望する進路の実現

生徒の進路実現に向けた、学力及び専門技術の定着・向上等

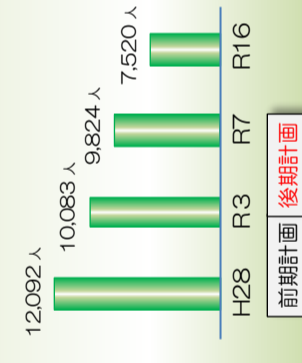
(2) 地域や地域産業を担う人づくり

地域人材の育成等について高校の持つ役割の重要性や地域からの期待等

- ① 各ブロック内の学校規模をできる限り維持し、学びの選択肢を確保
- ② 進学や専門分野の深い学びを希望する生徒のため、一定の学校規模も維持

- ① 各地域の学校をできる限り維持
- ② 多様な分野の学びも確保し、産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備

本県の中学校卒業生数の推移



いわて県民計画
(2019～2028)



本県を担う人材の育成

4 後期計画の具体的な取組

(1) 各地域における学びの選択肢の確保（原則として現在の学科、学級数を維持）

- 地方創生の推進に大きな役割を果たしている学校においては、所在する自治体と連携した教育活動の充実が進められていることから、一定の入学者のいる1学級校を維持。
- 県政課題への対応、産業人材の育成を担う役割がある1学年7学級等の学校は、学校規模を確保。

(2) 盛岡ブロックにおける特色ある教育を実践する大規模校の設置（盛岡南高校と不来方高校の統合）

- 県内各地域から生徒が集まる盛岡市内の高校への生徒の集中を緩和。
- 体育、芸術、外国語等の特色ある教育を実践する学校規模の大きさを生かした発展的な統合により、さらに先導的な実践に取り組むことができる教育環境を整備。

(3) 地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備

- ア 盛岡ブロックにおける工業高校の整備（盛岡工業高校の移転を検討）**
急速に変化する社会環境に対応できるよう新たな学びを取り入れること等も検討しながら、施設等の老朽化を踏まえ、産業人材に関する幅広いニーズや最先端の工業の学びに対応できる教育環境を整備。
- イ 県南地域における大規模な工業高校の設置（水沢工業高校と一関工業高校の統合）**
時代に対応した新しい学びの創設も検討しながら、産業人材のニーズに幅広く対応できる工業教育の充実に向けて教育環境を整備。
- ウ 宮古ブロックにおける専門高校の整備（宮古商工高校と宮古水産高校の一体的な整備）**
老朽化が進む両校の校舎等を同一校地内に集約し、各専門分野に関する特色ある学科の機能を連携させて幅広く学びつつ、地域産業との連携による専門教育の充実等も図ることができる教育環境を整備。
- エ 二戸ブロックにおける専門教育を担う学校の設置（福岡工業高校と一戸高校の統合）**
ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持しつつ、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる学校として教育環境を整備。

5 高校再編に関する基準等

(1) 周辺の高校への通学が極端に困難な学校の取扱い

- 近隣に他の高校がなく、通学が極端に困難な地域に所在する学校を特例校として維持。（葛巻、西和賀、岩泉）
- 1学級校については、直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合について協議。

(2) 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の適用

- 入学者が1学級定員（40人）を上回る欠員が生じた場合には、学級減を検討。

再編計画における県立高校（全日制）の編制

年度	中学校卒業生数	学校数	募集定員	学級数	学科種別学級数
平成28年度	12,092	63	10,200	255	普通科 148 専門学科 77 総合学科 30
令和3年度	10,083	62	8,960	224	普通科 129 専門学科 69 総合学科 26
令和7年度	9,824	59	8,680	217	普通科 124 専門学科 67 総合学科 26

後期再編プログラム総括表

※ 令和3年度入試の状況等により統合時期等を判断することとしており、その状況により、表の数値が変更となる場合があります。

設置タイプ等	年度	前期計画 統合延期校	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
専門高校 (令和7年度以降)							
専門学科・総合 学科併置高校		久慈東 久慈工業				福岡工業 一	水沢工業 一関工業
普通高校							盛岡南 不来方
学級減							
学校数(全日制)			62	62	62	61	59
学級数(全日制)			224	224	222	221	217

後期計画期間後の再編の方向性

- 学校規模を確保した上で教育の質を維持できるよう、さらなる統合の検討を進めていくことが必要となります。
- 専門学科及び総合学科については、多様な専門分野を維持した上で教育内容の充実を図るためには、ブロックを越えて専門分野を集約する大規模な統合の検討を進めていくことも必要となります。

後期計画（案）【令和2年2月6日】

Ⅲ 後期計画（令和3年度～令和7年度）の方針

4 後期計画の具体的な取組

(2) 盛岡ブロックにおける大規模校の統合

- 盛岡南高校と不来方高校を4年かけて5学級減（盛岡南のみ学級減）

学校名	R4	R5	R6	R7	R8	R9
盛岡南	17学級 (5・6・6) 1学級減	15学級 (4・5・6) 1学級減	12学級 (3・4・5) 1学級減	29学級 (8・10・11) 統合・新設	26学級 (8・8・10)	24学級 (8・8・8) 完成年度
不来方	21学級 (7・7・7)	21学級 (7・7・7)	21学級 (7・7・7)	21学級 (7・7・7)		

(3) 地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備

県南地域における大規模な工業高校の新設

- 水沢工業高校、一関工業高校、千厩高校産業技術科の統合により、6学級校（工業6学科）を設置

宮古ブロックにおける総合的な専門高校の新設

- 宮古商工高校と宮古水産高校を統合し、複数の職業系専門学科を併置した「総合的な専門高校」として再編

【統合に当たっての具体的な内容の検討について】

統合による新設校の校名、校舎・施設設備、学科・学系の構成等に関する具体的な内容については、統合対象校の校長等、PTA及び同窓会、並びに所在地の教育委員会及び地域の中学校の代表者等で構成される「統合検討委員会」を設置し、委員の皆さんの意見を伺いながら検討します。

後期計画（最終案）【令和3年2月1日】

修正1

(2) 盛岡ブロックにおける特色ある教育を実践する大規模校の設置

- 盛岡南高校と不来方高校を3年かけて5学級減（両校とも学級減）

学校名	R4	R5	R6	R7	R8	R9
盛岡南	18学級 (6・6・6)	17学級 (5・6・6) 1学級減	16学級 (5・5・6)	30学級 (8・11・11) 統合・新設	27学級 (8・8・11)	24学級 (8・8・8) 完成年度
不来方	21学級 (7・7・7)	20学級 (6・7・7) 1学級減	19学級 (6・6・7)	30学級 (8・11・11)	27学級 (8・8・11)	24学級 (8・8・8)

- ※（盛岡ブロックの中学校卒業予定者数）R4に4,192人が見込まれ、R2の4,176人と同程度となる（R7は3,986人）
- 新設校は不来方高校の校舎及び施設等を活用し、教育環境を整備

(3) 地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備

追加

盛岡ブロックにおける工業高校の整備

- 盛岡工業高校について、盛岡南高校の統合後ににおける校舎及び施設等を活用した教育環境の整備を検討

修正2

県南地域における大規模な工業高校の設置

- 水沢工業高校と一関工業高校の統合により6学級校（工業6学科）を設置
- 千厩高校の産業技術科（工業1）は現状を維持

修正3

宮古ブロックにおける専門高校の整備

- 宮古商工高校と宮古水産高校をそれぞれ単独で維持
- 同一校地内における両校の新校舎や施設設備等の一体的な整備

参考

二戸ブロックにおける専門教育を担う学校の設置

- ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持した統合により、地域の未来を見据えた専門教育の拠点となる学校として再編

福岡工業高校と一戸高校の統合

- 計画案のとおり統合を図ることとし、校舎制の導入により福岡工業高校の校舎を有効利用しながら、地域に現行の「機械」と「電気」の学びを維持します。
- 地域産業と連携した学びも取り入れながら、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる魅力ある学校として整備します。
- 子どもたちや一般の方々がものづくりに親しみ、地域の創造性や多様性をより一層高めていくため、学校を地域に開放し、産業教育施設等の活用を図ります。

（最終案）12・35頁

【修正の理由等】

中学生の進路の確保に配慮するとともに、統合まで両校の活発な学校活動を維持する。

（最終案）12～14頁

【修正の理由等】

- 盛岡工業高校の校舎等の老朽化に対応する。
- 産業教育の一層の充実や統合に関わる施設等の有効活用についての意見を踏まえ、新たな時代のもつづくり産業を支える人材育成に向けて、既存施設等の活用と一部更新により、工業教育のセンターとしての機能を強化する。

【修正の理由等】

- 通学が広範囲となることを懸念する地域からの意見を踏まえ、東磐井地区の生徒の通学圏内に工業の学びを残しつつ、県南地域の工業教育の基幹となる学校を整備する。

【修正の理由等】

- 県唯一の水産高校の存続を求めると地域の意見を踏まえ、水産教育のセンタースクールとして宮古水産高校を維持する。
- 宮古商工高校と宮古水産高校の校舎等の老朽化に対応し、一体的な整備により、両校の連携を通じた専門教育の充実や学校活動の活性化を図る。

〔盛岡南高校・不來方高校〕統合新設校における特色ある教育を先導的に実践する学びの姿

対象校

盛岡南高校
不來方高校

盛岡南高校
不來方高校

盛岡南高校
不來方高校

盛岡南高校
不來方高校

盛岡南高校
不來方高校

盛岡南高校
不來方高校

学科学系

普通科
普通科
普通科

普通科
普通科
普通科

普通科
普通科
普通科

普通科
普通科
普通科

学習内容の特色

- 現代社会が直面する課題や地域の抱える課題等を取り上げ、多角的な視点から解決策を図る学習を取り入れた、探究的な学びへの取組
- 思考力・判断力・表現力を重視する、新たな大入試制度への対応と、これからの時代に求められる資質・能力の養成
- 生徒が自らの将来の希望に応じて授業を選択する「単位制」の導入を検討

育成する人材像

- 様々な課題に主体的に取り組むとともに、他者と協働して解決する力を身に付け、岩手で、世界で活躍する人材の育成
- 医療や介護・福祉・教育、産業振興など、地域が抱える様々な課題において、最適解を求め、課題解決に資する人材の育成

統合新設校

学科学系	普通科〔人文・理数学系〕 (「探究学系」等の名称も検討)	普通科〔芸術学系〕 1学級	普通科〔外国語学系〕 1学級	普通科〔体育学系〕・(体育科) 2学級
学習内容の特色	現代社会が直面する課題や地域の抱える課題等を取り上げ、多角的な視点から解決策を図る学習を取り入れた、探究的な学びへの取組 思考力・判断力・表現力を重視する、新たな大入試制度への対応と、これからの時代に求められる資質・能力の養成 生徒が自らの将来の希望に応じて授業を選択する「単位制」の導入を検討	音楽、美術・工芸に関する歴史的、文化的背景等の教養とともに、これらの専門的な理論や技能の習得 生徒の個性を尊重しながら豊かな感性を養うことによる創造力の伸長や様々な発表の場を通じた表現力の伸長 芸術文化の社会的意義等に関する考察	外国人教師(ネイティブスピーカー)による指導や国際交流活動の実施 外国語による少人数ディスカッションやスピーチ、プレゼンテーションなど、多様で豊富な学習機会の設定 海外の高校や高等研究機関との交流 海外における日常生活、文化、風習などの理解促進や日本文化との比較	課題研究や演習、検定取得等を中心としたスポーツ総合演習(盛南スポーツ学)の継承 スポーツに関する理論や技術の習得、更なる競技力の伸長 身体や精神への影響、健康づくりなどの視点を取り入れた、スポーツの科学的な考察 地域社会、産業などとの結びつきによるスポーツの文化的、社会的意義に関する考察
育成する人材像	様々な課題に主体的に取り組むとともに、他者と協働して解決する力を身に付け、岩手で、世界で活躍する人材の育成 医療や介護・福祉・教育、産業振興など、地域が抱える様々な課題において、最適解を求め、課題解決に資する人材の育成	音楽、美術・工芸活動において国内外で活躍する表現者や指導者の育成 次世代の文化芸術を創造する人材の育成 文化芸術活動のプロデュースや交流、情報発信等を通じて人々の生活を充実させ、魅力ある社会を創造する人材の育成	高度な国際的感覚と外国語運用能力を備え、グローバル化の進展に対応できる人材の育成 文化や経済面等の様々な国際交流活動を発展させる人材の育成 外国籍の人々が地域に溶け込み、協働して発展に取り組む社会を構築する人材の育成	国内外で活躍するアスリートや競技力向上を支える人材の育成 生涯スポーツ、共生社会型スポーツの推進など、人々の生きがいや健康づくりに資する人材の育成 各種スポーツイベントの開催など、スポーツを通じた地域づくりを図る人材の育成

新たな発想とネットワークで社会課題を探究(各学系(学科)の連携によって創造的に課題解決につながる人材育成)

各学系(学科)が連携した学びの深化・総合力の育成 ※ 総合的な探究の時間の活用、単位制の導入等

人文・理数 × 芸術
× 外国語 × 体育
の学び

探究テーマ(例)

- あらゆる世代が生き生きと暮らせる社会の実現
(生涯スポーツや文化芸術活動、医療福祉の充実等)
- 障がい者や外国籍の人々の社会参加
(共生社会型文化・スポーツ活動の推進等)
- 文化・スポーツ等の振興による地域活性化
(世界に羽ばたく人材育成や国際イベントの誘致等)

地域との協働による学習活動

- 地域探究とキャリアアブランの醸成
地域の探究活動等を通じて地域を知り、考える力とともに社会性や公共性を養い、探究活動を通して生徒自らの将来のキャリアアブランの構築につなげていく。
- 地域資源の活用
近隣地域における医療機関集積等の条件を活かし、地域人材や資源の活用等、地域との協働による教育活動を行うとともに、文化やスポーツ、国際交流に関する情報発信を行う。
- 地域への学校開放や交流
全ての世代が健康で活気に満ちる社会の構築を目指して、学校を地域社会に開放し、生徒との交流とともに健康づくり、文化活動等への寄与を図る。

地域と協働し 時代のニーズに応える 本県の未来の担い手として活躍する人材を輩出する学校の創造